

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2793000064		
法人名	株式会社ケア21		
事業所名	グループホームたのしい家瑞光(2階)		
所在地	533-0005 大阪市東淀川区瑞光2-8-15		
自己評価作成日	平成27年5月19日	評価結果市町村受理日	平成27年8月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouyou_detail_2014_022_kani=true&ligyosyoCd=2793000064-00&PrefCd=27&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル
訪問調査日	平成27年6月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「一人ひとりがその人らしく 元気に 楽しく 明るく 生活でき 笑いや笑顔のあふれるグループホームをめざします」という理念のもと 入居者様にとって施設が生活の場であることを常に念頭におき 安心して穏やかに過ごせる環境に配慮し 行事やレクリエーション 食事やおやつなども季節感を大切にしています。1Fに併設の認知症対応型デイサービスとの交流や 2F・3Fフロア合同の行事も行っています。地域活動にも積極的に参加するよう努め 地域包括センターや区内の他法人のグループホームとも連絡会などで情報交換を行っています。今年9月で開設5周年を迎えますが 職員のうち3年以上の勤続者が60% 介護福祉士の割合も50%で 認知症介護実践者研修受講も推進しています。全スタッフが社内の認知症ケア研究会でユマニチュードを学び 日々のケアに生かす取り組みに参加するなど より良いサービスの提供を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該事業所は、「一人ひとりがその人らしく元気に楽しく明るく生活でき笑いや笑顔のあふれるグループホームをめざします」と掲げた理念の基、利用者の笑顔が見られるように職員は利用者の立場になって考えカンパレンス等で意見を出し合いながら支援を行っています。日々の散歩や買い物に出掛けた時の挨拶をはじめ、地域の盆踊りや中学生と合同で行われた避難訓練に利用者も参加し、地域の一員として事業所を知ってもらえるよう取り組みサービスの向上に努めています。個々の利用者を大切に心のこもった支援や言葉かけを心掛け、利用者は温かい雰囲気の中で、読書や音楽を聴いたり思い思いのことをしながらゆったり過ごしています。運営推進会議に家族や利用者の参加が多く、外出先や食事について等広く意見をもらい運営に活かしています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者一人ひとりがその人らしく「元気に楽しく明るく」生活でき 笑いや笑顔のあふれるグループホームをめざします。という理念を掲げ 実践するために 職員も心身の健康保持に努めている。	事業所開設時に独自の理念をフロアや利用者の目の届く所に掲示し職員に意識付けを行い、利用者の笑顔を見たいという意識を持ち日々支援する中で実践に繋げています。入職時に理念に込められた思いを説明し周知しています。年度末の会議では理念の実現と利用者の視点に立てていたか等を話し合い振り返っています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣店舗での買い物や散髪 喫茶店の利用したり 町内会に加入 毎月の廃品回収や今年度は班長ということで町内の清掃にも出来るかぎり参加を心がけている。	毎日の散歩や近隣の商店へ買い物に行き挨拶をして顔馴染みになったり、地域の盆踊り等の行事へ参加する事で地域と交流をしています。4月から自治会の班長となり、月1回の会議や町内会の掃除にも参加し、地域の人と話しをする機会を持っています。中学校が取り組んでいる要介護施設との避難訓練のため事業所への見学を受入れる等、中学生との関わりを持ち始めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今はまだ十分ではないが 徐々に地域とのかかわりを増やす努力をしており 地域に貢献できるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	介護報酬の改定などの資料を提示し説明を行ったり 行事報告はもちろん 日常の様子なども スライドなどで紹介したり 入居者やご家族とテーマを決めて要望を聞くなど意見を引き出せるよう工夫している。	会議は利用者や家族、地域包括支援センター職員、地域代表、職員等の参加の下2か月に1回開催し、利用者の状況の説明や活動報告、意見交換をしています。会議ではテーマを決めて意見が出やすいように工夫しています。食事についてや外出先の希望等の意見があり対応する等、得られた意見をサービスの向上に繋げ、改善した経緯を報告しています。	会議に地域の方の参加が少なくなっており、民生委員等の地域の方の参加を呼び掛けられてはいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険についてわからないことを質問したり 事故時はすみやかに報告をあげています。	法人を通じて介護保険制度や不明点等を確認したり、運営上の報告書の提出に市の窓口へ訪問しています。地域のケア会議に市の職員の参加があり意見交換をしています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について 本社研修受け職員に周知しています。出入り口の施錠はしていますが 希望時には出来るだけ一緒に出るよう心掛け 職員が少ない時間帯などは 制止ではなくなるべく肯定的な言い方をすよう 話し合っています。	年1回法人で身体拘束防止の研修を代表者が受講し事業所で内容を伝達し、管理者は具体的に身体拘束防止の意識付けをし、肯定形での声かけを心掛け言葉による制止が見られた時にはその都度注意しています。センサーの使用や各フロアと玄関の施錠をしています。職員へ必要性や目的を説明し、利用者が拘束感なく暮らせるような支援に努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員に研修を実施し 虐待防止について職員が学び 意識を持って入居者の尊厳を守るよう努めている。		

グループホームたのしい家瑞光(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本社のキャリアアップ制度を使って実務者研修の受講を促している。ご家族への周知については地域包括センターから配布されるさっしなどをわたしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書に添って わかりやすく説明し理解してもらっている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常の面会時や運営推進会議の際には言いやすい雰囲気留意し 施設の玄関ご意見箱を設置し 無記名でも意見・要望を伝えやすく配慮している。本社にお客様相談室を設け 契約時などに周知している。	年1回実施するアンケートや意見箱、運営推進会議、面会の来訪時に家族から意見を聞いています。利用者の日常の様子が知りたいと要望があり、職員へ普段の様子や変わったことを伝え対応できるよう取り組んでいます。またスタッフの対応について意見があり、個別に指導したり会議で議題に挙げる等、得られた意見を運営に反映しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	本社では業務改善提案書を募り 改善につなげ事業所においては 日常的に職員が話し合い 状況の変化に合わせ細かく対応している。	月に1回のスタッフ会議や日々職員が意見を出しやすい雰囲気を作り、書式の変更や業務改善について話し合い実践しています。事故防止やレクリエーション等の担当職員を決めており、担当としての意見も上げています。法人としても職員が業務改善提案を行えるようなシステムを作っています。年1回行う個人面談や、必要に応じて随時面談をして広く職員の意見を吸いあげています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎年従業員満足度調査を実施し 満足度向上に取り組んでいる。自己申告シートによる個人の希望も伝えモチベーションアップにつなげている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新卒採用者は5日間 中途採用者は3日間の入社時研修を本社で受け その後も定期的にフォローアップ研修を受ける。コーチング研修も必修となっている。またキャリアアップ制度の活用を促進し資格取得を推奨している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東淀川区グループホーム連絡会に加わり 3か月に1度開かれる会議に出席し 情報交換をしたり 研修の開催などでスキルアップに繋げている。		

グループホームたのしい家瑞光(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人・ご家族とコミュニケーションを密にし、本人のニーズや要望の把握に努め、信頼関係を築くようにしている。職員間で情報を共有し、同じ支援が出来るようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時に困っていることや不安なことを聞き対応の方法と一緒に考え、信頼関係を築くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所を考えたきっかけや、日常の様子やお困りごとを聞き、本人にとって一番いい決定が出来るよう他のサービス利用も含め提案助言している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中でその人にどんなことが出来るのかを見極め、役割として定着するよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やお便りで施設での様子を伝え、支援の方法を相談したり協力をお願いしている。本人のお誕生日会への参加や行事への参加もお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	教え子や遠方の親族の面会もあり、入居者が親族の結婚式や法事に出席される際の支援なども行っている。	教え子や遠方の兄弟等の来訪があり、椅子を準備したりお茶を出して居室や共有空間で利用者とゆっくり過ごせるように支援しています。親族の結婚式や法事へ外出する際には出かける準備を支援しています。家族の対応で自宅へ帰ったり職員と馴染みの店や畑に行くこともあります。また年賀状の作成を一緒に行うなど、馴染みの人や場との関係が維持できるよう支援をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の会話や様子から入居者同士の関係の把握に努め、座席の位置を工夫したり職員が潤滑油の役割となるよう努めている。		

グループホームたのしい家瑞光(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に退所後も必要があれば相談を受ける旨を伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	随時本人・家族の希望を聞き 出来る限り意向に添えるよう努めるとともに自分なら自分の親ならどうしてほしいかを考え検討している。	入居時に利用者や家族から意向や希望、趣味、身体の状態を細かく聞き書面に記載しています。入居後は日常の支援の中で利用者から聞いた思いは出来る限りそのままの言葉で記録し、会議で利用者の思いや希望について話し合い意向の把握に繋げています。また把握の困難な時には、家族からも話を聞いて本人本位に検討しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や習慣 これまでのサービス利用経過など 職員間で共有し支援に生かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常の様子を詳しく介護記録に記載し 情報を共有し現状や 変化を把握し支援に生かすようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月ごとに全職員の意見を集約しモニタリング・評価を行い 家族には暫定プランを確認してもらい面会時や電話で意見を聞きプランに反映するようにしていません。医師や外部の関係者と連携が必要な時はサービス担当者会議を開いています。	アセスメントを基に作成された初回の介護計画は、入居後1か月間でより利用者のことを把握して見直しています。その後は3か月毎に評価表を使いモニタリングを実施しサービス担当者会議を開き、変化がなければ6か月毎に見直しています。見直し時には再アセスメントを行い往診時の情報や家族の意見も聞き計画に反映しています。介護計画の実施状況は日々記録で確認できるように工夫しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに添った一日の流れと その日の様子からの気づきにわけて介護記録に記載し 申し送りノートの活用で 職員間で情報の共有をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が無理な時の受診の付き添いや 外出・通院時の介護タクシーの手配 福祉用具の相談も行っている。		

グループホームたのしい家瑞光(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の盆踊り参加やや子供神輿の観覧など 近くの神社への初詣などを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科・皮膚科については協力医療機関の往診で対応 整形外科・泌尿器科など他科の受診は主治医の指示のもと近くの医院を受診している。歯科は希望者のみ週1回往診対応している。	協力医又はこれまでのかかりつけ医の選択が可能です。現在は全員が協力医の往診を受けています。協力医は24時間対応が可能です。緊急時には連絡でき指示を受けています。週1回訪問看護師の健康管理や、入居者、家族の希望があれば歯科往診で月1～4回の口腔ケアや、必要時に歯科医の治療を受けています。その他の専門科へは家族が基本で同行し必要に応じて職員やヘルパーの対応で受診しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携を取り 週一回の訪問看護を受けている。気になる体調や症状について相談し 悪化の防止や早期の治療に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の主治医の診療情報の交換や介護・看護サマリーの交換 退院時必要に応じて相談員を介して入院先の主治医・家族との面談 施設の主治医・家族・関係者を交えての担当者会議の開催も行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	出来るだけ早い段階から 本人・家族の意向の把握し 事業所で可能な支援を理解してもらいながら家族・医師・看護師・職員が話し合い方針を共有し連携して支援している。	入居時に重度化や終末期の対応指針にそって説明し同意を得ています。重度化した際には医師の判断により家族に説明し、本人・家族の希望に添い対応が可能であれば担当者会議で家族や医師、訪問看護師、職員で話し合い体制を決めて看取りを支援しています。担当者会議で方針を共有し、法人の看護師に対応を相談し職員の不安を軽減しながら看取り支援に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	本社研修のほか 事故災害時マニュアルを提示 AEDを設置し 職員がふつう救命救急講習を受講		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災を想定した避難訓練を行っています。地域で行われた中学生と要介護者の避難訓練に参加している。	年2回の消防訓練の内1回は消防署立会いの下それぞれ昼夜想定し、昼間想定時は併設のデイサービスと合同で初期消火や通報、避難誘導等の訓練を実施しています。地域の介護施設の防災マップがあり、中学校の取り組みで中学生との避難訓練のための見学を受け入れています。また、事業所の訓練に地域の方の協力を呼び掛けていく予定です。	

グループホームたのしい家瑞光(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本社の取り組みである認知症ケア研究会の課題であるユマニチュードの実践に組み入れ、人格を尊重した言葉かけや対応で気持ちを相手に伝えることを実践している。	職員は利用者その人を大切にするケアを学び、個々に合わせた声かけを実施し、成功例や失敗例を職員間で話し合っています。敬意を持ち気持ちを込めた対応に努め、特に入浴や排泄の時にはプライバシーに配慮しています。問題のある声かけが見られた時にはその都度注意したり、申し送りノートに記載し注意喚起しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日のティータイムの飲み物や選択や おやつを選択肢を提示する機会を増やしたり洋服えらびも働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間は出来る範囲で本人のペースを尊重するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	出来るだけ自分で洋服を選んでもらい 化粧品・乳液の使用や 髭剃りも声をかけてしてもらっています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	じゃがいもやニンジンの皮むき モヤシの根とり 副菜の取り分け 食後の片づけなど出来る事は一緒にしています。	業者が立てた献立を基に食材が届き、食べやすく利用者の好みに合わせ調理方法を事業所で変更しています。うなぎやそうめん流し等季節に合わせた献立にすることもあり、職員も一緒に食卓に着き同じものを食べながら和やかな食事の時間となるよう支援しています。利用者も一緒に手作りでプリンやホットケーキを作ったり、外食で寿司を食べに行く等、変化を付けながら食事を楽しんでもらっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を記録し 食事や水分は嚥下や歯の状態に合わせた形態で提供し 水分摂取の少ない人には 食事やティータイム以外に好きな飲み物を提供するなど支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを促し 本人で不十分な場合はその人に応じて介助している。希望者のみ訪問歯科で歯科衛生士の口腔ケアを週1回受けている。		

グループホームたのしい家瑞光(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定時・随時の誘導を行った記録をもとに 排泄リズムを把握し 出来るだけトイレで排泄できるよう支援しています。	排泄の記録を取り、利用者ごとに排泄のパターンを把握してトイレでの排泄を基本に声かけや支援をしています。重度の方も2人介助でトイレへ誘導し排泄できることもあります。自立に向かうよう支援の方法やパッド等の排泄用品の種類や大きさは利用者に応じて職員間で話し合って決めています。又、ヨーグルトの摂取やマッサージで便秘にならないよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝食時のヨーグルトや週3回乳酸菌飲料を提供し 繊維質のおやつ・バナナ・リンゴなどの果物やホットヨーグルトを個々の排泄状態に合わせて摂取してもらい 出来るだけ緩下剤を使わなくて済むように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は週2回 日中の時間帯が基本であるが 本人・家族の希望で3回入浴している人もいる。拒否がある方については 時間帯を固定せず 随時声をかけ タイミングを逃さないように支援している。	利用者毎に週2回の間隔となるように日中の入浴を基本に支援しています。利用者の希望により週3回入浴の対応をしている方もいます。入浴拒否が見られる利用者には、声かけのタイミングを工夫して無理強ひせずに入浴してもらっています。1人毎に湯を換え、好みの入浴剤を使用して入浴を楽しんでもらっています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	出来るだけ馴染みの環境で 馴染みの寝具を使ってもらい安心できるようにし 好みや体調に合わせて空調を調節している。季節の変化に合わせた寝具を使うよう支援している。全介助が必要な方には2時間ごとの体位交換をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	調剤薬局の管理のもと薬剤管理している。入居者個々の内服薬の情報は薬効・副作用を含め職員が閲覧できるようにしている。薬剤の変更時は記録し申し送り周知するようにしている。特に副作用に留意して観察し 変化があれば医師に報告し指示を受けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯や食事の準備や片づけを一緒にしたり季節に応じた食事やおやつを提供を心がけスタッフも一緒に楽しむようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の散歩・買い物のほか花壇の水やり・ゴミだしなどで 外の空気に触れ季節を感じてもらおうように努め 遠足に家族参加を募り思い出づくりの支援もしています。	日々、気候や利用者に応じて散歩に出かけ楽しんだり、花の水やり、洗濯物を一緒に干すなど、外気に触れる機会を作っています。年2回の遠足で水族館や動物園へ家族と共に出掛けたり、初詣や季節の花見へ行っています。利用者の希望により個別の外出も支援しています。	

グループホームたのしい家瑞光(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には預り金として管理者・フロアリーダーが管理しているが 本人・家族の希望でいくらかの現金を自分で持っている方が買い物を希望されれば自身での買い物を支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話・手紙は入居者の希望があれば支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられる壁飾りを入居者と一緒に作成して飾っています。空調に加え空気清浄器を使用し快適な温度・湿度の調節をこまめにしています。清掃や環境整備にも留意し 心地よく安全な空間づくりに努めています。	廊下に利用者と一緒に作った季節の感じられる作品を飾り温かい雰囲気を作り、利用者同士の相性等も考慮して椅子やテーブルを配置を時々変更しています。廊下に一人で過ごせるよう椅子を配置し場所を作っています。毎日の定期的な清掃に加え、汚れに気付いたらその都度清掃を実施し、室温や換気にも配慮し快適に過ごせる共用空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやベンチを置き 一人になれたり 集団から離れた空間を作る工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に馴染みの家具や品物を持って来てもらいベッドより布団を好まれる方は布団で対応している。	居室には椅子や机、写真、本、仏壇等の使い慣れた物や大切にしている物を持ち込んでもらい、家族が配置し職員が安全面に考慮して了承を得て替えることもあります。全室洋室ですがラグを敷き、ベッドではなく布団の対応も可能です。毎日居室の清掃を行い清潔保持を心がけ、壁紙を青色に変えたり、ラジカセで音楽を聞いたり読書をする等その人らしく過ごせる居室を作っています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアの名前や トイレ・浴室もドアに明記しています。		